

景観学習のススメ



青森県

青森県では、良好な景観形成の意識を育むことを目的として、感性の形成期にある小学生を対象に、景観学習の出前授業を実施しています。この取組は希望する小学校に対して専門家を派遣し、身近な景観を切り口に普段見慣れた風景のなかに隠れているふるさとの魅力に気づく目と、愛着や誇りをもつ心を育む出前授業です。

📷 景観とは…？

風景＋観察＝“景観”

「景観」というキーワードは、

- ①風景としてのながめ
- ②風景を育んできたその土地の歴史や人々の暮らし
- ③風景を観察する人が感じる気持ち

の3つを含んだ概念です。

📷 景観学習とは…？

見慣れた地域の風景をじっと“観”て、「あれ?」「おや?」と思うことを見つけ、深く掘り下げて調べてみる学習です。

この学習では、地域の「観かた」を学びます。子ども達は学習を通じて、物事を感じ取る力、自分で調べ考える力、それを表現する力を養うことができます。



子ども達が、屋根瓦に「寿」という字を発見しました。これは、この地域独特のものだということは分かりましたが、地域の高齢者でも存在を知らなかった人が多く、調べても由来までは分かりませんでした。子ども達は「大工さんが、この家に住む家族の幸せを願ってつけたのではないかと想像をふくらませ、こういった景観を「昔のくらしのなごり」と表現しました。

(平川市立松崎小学校 児童撮影写真)

📷 出前教室 「景観学習教室」

平成14年から「景観学習教室」を実施しています。これは、県の景観アドバイザー（景観の専門家）が講師となり、景観の重要性を伝える90分程度の出前授業です。

現在までの12年間に延べ150校、約6,000名の子ども達が受講しています。

基本的な授業パターン…90分

1. 副読本を使った講義
2. 児童が選んだ好きな景観、嫌いな景観の紹介
3. 景観づくりの取組事例紹介



「子ども景観探偵団フォーラム事業」

より各小学校の地域学習に寄り添う景観学習を目指し、平成25年度は試験的な取り組みとして、「子ども景観探偵団フォーラム事業」を実施しました。これは、県内4小学校を対象として、まち歩きを組み込んだ出前授業と発表会を開催するものです。



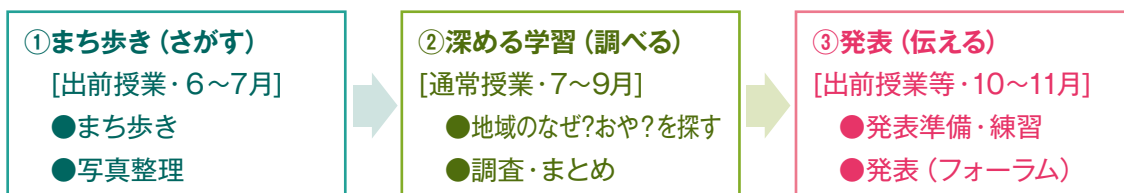
事業のねらい

- 1 ふるさとの良さに気づく
- 2 自己表現能力を育成する

故郷への愛着と誇りを心に刻んだ
県の未来を担う『人財』が育成される



全体の流れ



授業

- ① アドバイザーによる基礎講座後、全児童にカメラを配付し、学区まち歩きを実施（出前授業1）。撮影した写真を印刷し、各自シートにまとめ、地図にまとめ（出前授業2）。
- ② 担任の先生の指導のもと、景観の背景にある歴史や文化を学習。
- ③ アドバイザーの助言などを受け（出前授業3）、発表準備。



フォーラム

平成25年11月6日、青森市文化会館において、各校20分程度の発表をおこなう、合同発表会を開催しました。発表会には、保護者や学校関係者、行政担当者等の参加があり、メディアにもとりあげられました。子供達は、他校の発表を聞いて、その違いからさらに自分の地域への理解を深めました。



実施校

学校名	学級	担当講師
平川市立松崎小学校	4年生22名	八戸工業大学 教授 月舘敏栄氏
鱒ヶ沢町立西海小学校	5年生20名	(一社) 青森県建築士会 常務理事沼田実氏
黒石市立黒石東小学校	4年生54名	弘前大学 教授 北原啓司氏
五所川原市立市浦小学校	5年生13名	八戸工業高等専門学校 教授 河村信治氏



↑授業の様子

📷 実施状況① 八戸工業大学 教授 月舘敏栄 氏×平川市立松崎小学校4年生 「私のまち新発見」

松崎小学校では、子ども達の「主体的な学びの感覚を育てる」ための学習として、景観学習を取り入れました。

👉 授業スケジュール (トータル授業時間数=70時間程度)

5~7月 まち歩き

- 6/27 ● プレ学習「地域探検」
- 第1回出前授業(まち歩き授業)
- 写真選びと感想書き出し
- 7/5 ● 景観シートまとめ(授業参観)
- 感想交流会
- 今後調べてみたいことを考える

9月 深める学習

- 調べ学習
- 地図の作成

10月 発表準備

- 11/9 ● 発表の練習
- 学習発表会
- 1/25 ● 「松小感謝祭」(地域住民向け発表会)にて活動報告

担任の先生 … 木川 恵里子 先生



出前授業前の地域探検では…

地域探検では、「お気に入りのもの」「なんだこれ?と思うもの」を撮ってきて、と伝えて送り出したのですが、撮ってきたものは、標識やまつぼっくりやごみなど。「あれも、これも」と脈絡なく撮ってきてしまいました。また、子ども達の中では「景色」は漠然と遠くにあるものというイメージで、教師側の抱く「景観」とは違っていることが分かりました。教師の気づかせたいところと、子どもの意識に差があると感じました。

子どもの意識が「景観」をとらえた瞬間

最初の出前授業で、講師の先生から松崎小学校区の特徴的な景観の紹介として、屋根瓦に「水」と書いてある写真が提示されました。子ども達はこの写真から「景観」の意味を理解したようでした。



これをきっかけに、子ども達はこれまで自分が見てきたこと、聞いたこと、感じたことを思い起こし、新たな松崎の景観探しに取り組もうとする意欲が湧いてきたように見えました。

授業の工夫: 「問い返し・感想交流会」

今年度の総合学習では、「子どもが気づいたこと、作ったものから学習をすすめる」という事を大切にしました。



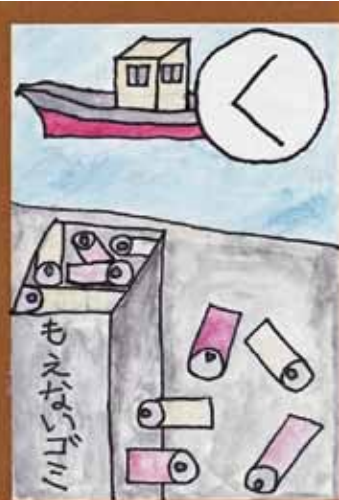
そこで使った方法が「問い返し・感想交流会」です。どの作業も、一回試しにやってみてから、子ども達に感想を書いて発表してもらい、子ども同士で意見を交換しながら、出来上がったもののいいところや直すべきところ、どう直せばいいかを考えさせ、もう一度形にする作業にはいる、というやり方ですすすめました。



とても時間はかかりましたが、子ども達は「もっと調べたい」と学習に能動的になりました。そして、漠然と選んでいた写真が自然と淘汰されていき、しめ縄についている飾りの由来や、用水路の階段の意味など、学習の「気づき」「興味」が質的に高まっていったと感じました。感想を書かせてみても、「昔のくらしのなごり」などの言葉が出るなど、子ども達が景観を通じて昔に思いを馳せ自分とのつながりを感じた事がわかり、イメージーションを育てることができたと感じました。



けっさくだ
今日のたづぐれ
ながめてる



くちていく
ごみが海を
汚してく



↑授業の様子

📍 実施状況② (一社) 青森県建築士会 常務理事 沼田実 氏×鱒ヶ沢町立西海小学校5年生 「鱒ヶ沢景観かるたづくり」

西海小学校は、「身近な景観から町の美しい姿に気づかせ、歴史や文化を学ぶとともに、未来を担う子ども達の心情を育てたい」という担任の希望に沿い、学習を進めました。

👉 授業スケジュール (トータル授業時間数=20時間程度)

6月	まち歩き	<p>6/26 ●第1回出前授業 (まち歩きオリエンテーション、まち歩き)</p> <p>6/27 ●第2回出前授業 (景観シート、景観マップ作成)</p>
9月	深める学習	<ul style="list-style-type: none"> ●景観シートの分類 ●下絵写真選び ●読み句の作成
10月	発表準備	<ul style="list-style-type: none"> ●かるたの作成 ●発表の練習 <p>10/20 ●第3回出前授業 (発表会リハーサル)</p>

担任の先生 … 倉内 貞行 先生



かるたを作ってみて…

かるたは、文字とテーマ（題材）をクラス全員に割り振りして、1人2組程度の絵札と文字札を作りました。絵が苦手な子の中には、途中で挫折した子もいたのですが、得意な子がアドバイスしていました。かるた作りの良い所は、子ども達が助けあいながら、最後にクラスで一つの作品になれた点だと思います。

印象に残った場面：

「漁具倉庫は良い景観？悪い景観？」

まとめ作業で、景観を「良い景観」「悪い景観」「気になる（直したい）景観」の3種類に分類したのですが、その時ある子どもが撮影してきた漁具倉庫が話題になりました。雑草ぼうぼうの中に立つ古びた倉庫は廃墟のようで、はじめは「悪い景観」だという意見が出たのですが、クラスで議論をしていくうちに「この漁具倉庫は鱈ヶ沢港の歴史を表している」という意見が出て、結局「良い景観」としてかるたに載せることになりました。子ども達とこういう議論を、本当に膝と膝を突き合わせて話せたことが良かったと思います。



子ども達の変化①：色に対する意識の高まり

講師の沼田さんとのまち歩きで、ある神社の鳥居が目にとまりました。その鳥居は、本体は朱塗りなのですが、土台部分が鏡のようにキラキラした銀色でした。それを見た沼田さんが「せっかくなら土台も自然の色づかいにしたほうが合うのに」とおっしゃっていたのが子ども達の心に残ったようです。今でも、「この色はあう、あわない」「もっとこうすればいいのに」と色に対する意識が高まりました。



子ども達の変化②：知識と体験を結びつけて学習するようになった

鱈ヶ沢の港町には旧市街と新市街があります。まち歩きでここを歩いた子ども達が「旧市街は家と家とが近くて、新市街は家と家とが遠い」と発見して帰ってきました。後日、別の授業で、地域の方から昔の鱈ヶ沢のお話を伺う機会があって、地域の方が「鱈ヶ沢は昔火事が多くて大変だった」というお話をされた時に、その子ども達が「ああ、それは家と家とが近かったからだ」と言ったので、驚きました。景観学習を通じて、ただ漠然と歩いていたまちを、観察する視点を持てたのだと思います。



↑授業の様子

📷 実施状況③ 弘前大学 教授 北原啓司 氏×黒石市立黒石東小学校4年生 「こみせ景観探偵団」

黒石東小学校では、総合的な学習の時間の全体計画で決めている「すみよいまち（郷土理解）」の一環として景観学習を取り入れました。

👉 授業スケジュール（トータル授業時間数＝30時間程度）

6月	まち歩き	6/21	●第1回出前授業 (まち歩きオリエンテーション、まち歩き)
		6/24	●第2回出前授業 (景観シート、景観マップ作成)
		7/5	●参観日での発表
7～8月	深める学習	7/16	●第3回出前授業(こみせについて) ●個人でテーマを決めて、調べ学習 (夏休みの宿題)
		9～10月	発表準備
		10/11	●発表グループ編成、グループごとテーマ決定 ●第4回出前授業(ポスター制作) ●ポスター作成、発表原稿作り

 担任の先生 … 奈良 寿子 先生、三上 龍生 先生



景観学習を実施したきっかけ

本校の学区には、藩政時代からのこる木製アーケード「こみせ」などの伝統建築群が残る旧市街があります。今年の4年生は新興住宅地側に住んでいる子ども達が多く、旧市街に遊びに行ったことがない子どもも多くいました。そこで、市の財産であるこみせと出会わせようとこの授業を実施しました。



授業を実施してよかったこと： こみせに関わる人との出会い

子ども達は、まち歩き授業の後も、学習の都度分からないことができると、自主的に出かけて行って写真を撮ったり調べたりしていました。この時、住民の方が出てきてくださって、中を見せてくださったり、資料には出てこない歴史の裏話的なことを話してくださったりしたそうです。文化会館の発表にはのせきれませんでした。学習プロセスで子ども達が得たものは大きかったと思います。



印象的な場面：ポスターのタイトル決め

ポスター制作の際、お手本として県内の観光ポスターを見せて、「タイトルはこういうふうに、こみせに行ってみたいと思ってもらえるようなものをつけてごらん」と指導しました。すると、こみせを訪ねて調べたチームからは「やさしさで作られたこみせ」というタイトルが、夏休みに街頭に立って観光客がどこから来たのか調査したチームからは「人を集めるまほう」というタイトルが出てきました。（あまりに良いタイトルなので、ポスターを見た方から「先生がタイトルをつけたのでは？」と思われてしまったそうですが）あのタイトルは、完全に子ども達の中から出てきた言葉です。



他の教科との関連

4年生の学習では、国語で「情報を調べる・まとめる」、図工の絵や版画で「こみせ」を取り上げます。景観学習はこれらの学習とリンクしており、ポスター制作の過程でインタビュー等を実践し得た情報を活用したり、まち歩きで画題に触れたりしたことで、それぞれの学習に意欲的に取り組むことができました。



↑授業の様子

📷 実施状況④ 八戸工業高等専門学校 教授 河村信治 氏×五所川原市立市浦小学校小学校5年生 「市浦の歴史・地域学習」

市浦小学校では、前年度から計画していた「歴史学習」に景観を取り入れました。

👉 授業スケジュール (トータル授業時間数=30時間程度)

6月	まち歩き	6/12	●第1回出前授業 (まち歩きオリエンテーション、まち歩き)
		6/13	●第2回出前授業 (景観シート、景観マップ作成) ●景観シート、景観マップ完成
			●テーマ決め ●調査: 歴史民俗資料館・ボランティアガイド
9月	深める学習		●新聞の作成
		10/10	●第3回出前授業 (新聞見直し) ●絵地図作成、発表準備
10月	発表準備		

担任の先生 … 白川 詔子 先生



応募のきっかけ

市浦という土地は、縄文時代から人が住み、中世には北前船で国際的に栄えた、歴史深い土地です。去年4年生で郷土学習を行った際に、あちこちでそういった歴史に触れる機会があったのですが、4年生には難しい内容だったので、深めることができませんでした。そこで、5年生では「歴史学習」をおこないたいと考えていました。

総合学習では、まとめ作業を行いますが、「誰に対して、どういうことを伝えたいか」という相手意識を明確にして発表までやらせたいと考えていました。しかし小さな小学校では発表の機会がそう多くありません。そこで、この事業に応募し、子ども達に「市浦を知らない人に市浦を伝える」ということを体験させようと思いました。

景観学習とからめてよかったこと： 子ども達が気持ちを込めて学習に臨めたこと

地域学習に景観学習と絡めると、まとめの際の「地図作り」が変わりました。

通常の間図づくりで書き込むのはその場所の「情報」だけです。しかし今回の学習では、地図に写真を貼った隣に付箋を貼り、「どうしてその写真をとったのか」「何が面白かったのか」を書かせました。その作業をすることで子ども達は自分の考えや思いを頭で考えて表現できました。これが良かったと思います。



また、発表会にむけて、調べ学習した場所の地図を作ったのですが、講師の先生から「このままだと子ども達の意識が昔に行ったままになってしまうので、地図を手作りの絵地図にして、その周りに歩いた時に感じたことを書いてはどうか」とアドバイスがあり作り直しをしました。この作業で、子ども達は歴史と自分の感覚を同じ紙に書くことになり、「昔と今」を結びつけることができたと感じました。



高学年の総合学習では、「情報発信」がテーマになります。来年度以降の発表の時には、ただ情報を発信するのではなく、ふるさと市浦のことを「自分の気持ち」をこめて「自分の言葉」で伝えられるように、「自慢」できるように、指導していきたいと考えています。



📺 校長先生から…



松崎小学校長 鶴谷 直樹 先生

この学習を通じて、「不思議だ、おもしろい」という純粋な興味・関心から物事に熱心に取り組む力を養い、自ら課題を見つける力を身につけることができたと思います。

また、今回子ども達が見つけた発見は、そのまま本校の「教育資源」になると考えています。子ども達の発見を形に残し、来年度以降の学習にも活かせればと思います。



西海小学校長 新谷 寛 先生

子ども達は元々ふるさと鱒ヶ沢が好きでしたが、それは漠然とした感覚で、「何が好きなのか」「どこがいいところなのか」を意識していませんでした。

今回の学習では良い所を再発見し、改善したいところも見直すきっかけとなりました。また俳句にチャレンジすることで今教育に求められている「表現力」も養うことができました。良い学習だったと思います。



黒石東小学校長 藤田 秀文 先生

本校の総合的な学習の時間は、4年生で郷土理解、5年生で郷土情報発信、6年生で実際に行動する、という流れになっています。4年生はその後の学習の足元を固める大事な年なので、専門家の方に複数回学校に来ていただいたのはありがたかったです。

また今回の事業では、発表会など、他校が郷土学習をどのように進めているのかも知ることができたので、その点でも良い機会でした。



市浦小学校長 間山 弘海 先生

「君の住んでいる市浦ってどんな所?」「もちろん、いい所!」「例えばどんな所?」「・・・(汗)」…ありがちなパターンです。

この度の事業は、生まれた時から当たり前身の周りにあった『実は凄いもの』を再発見し、郷土に対する興味と関心、そして誇りを持つ素晴らしいきっかけとなりました。今現在目にする景観の奥に、積み重ねられた地域の歴史を思う…この事業を通して、子ども達にそのようなものの見方が育ってくれば、と願っています。

📷 講師の先生から…



八戸工業大学 教授 月舘 敏栄 氏

景観は「人々の生活の仕方・歴史・暮らしと自然の関わり」が表出したものです。これを感じ取るには子ども達の「面白い」「好き」「不思議」といった感覚が欠かせません。

従来型の地域学習では、観光学習や環境学習など、教える大人側で学習対象を絞ってしまうため、子ども達の感覚を活かすことが難しいですが、景観学習では、子ども達の興味に基づいて学習を進めることが大切だと思っています。



(一社) 青森県建築士会 常務理事 沼田 実 氏

子どもの気持ちが柔軟なうちに、景観の基礎を学ぶことは、地域への気づき、愛着心を育てるすばらしい学習です。

また、まとめとしてカルタを採用することで、社会・国語・図工の教科に通ずる学習となったり、少人数のグループに分かれて作業を行うことで、コミュニケーションの充実もはかることができたりと、波及効果も期待できる学習だと思います。



弘前大学 教授 北原 啓司 氏

私は郷土学習と景観学習は別物だと考えています。郷土学習では史跡等、大人が思う『良い物』『有名なもの』を扱いますが、景観学習は、子どもが興味を持ったものを学習対象にするからです。

今回は、子ども達から「人を集める”まほう”」「”やさしさ”で作られたこみせ」などの言葉が出てきました。こうした子ども達の感性に、いつもはとさせられます。



八戸工業高等専門学校 教授 河村信治 氏

景観と向き合う時に大切なのは、まず「感じること、意識すること」です。これを子ども達からどう引き出すか、先生方と相談し、すり合わせていく過程が私としても良い経験でした。

景観学習では、過去の歴史に育まれた「今の地域」を捉えることが大事です。風景の背景には地域が過去から“継承してきたもの”があり、これは地域の未来を考える際の礎となります。子ども達は成長とともに「課題解決の方法」を学ぶでしょうが、それ以前に「課題に気づく、課題を自分の身で感じること」は大切な力です。景観学習は今後の地域学習のベースになる力を育てることができます。

📷 小学校で景観学習を導入してみませんか？

👉 景観学習はこんな使い方ができます

総合学習や郷土学習の導入・テーマ探しとして…

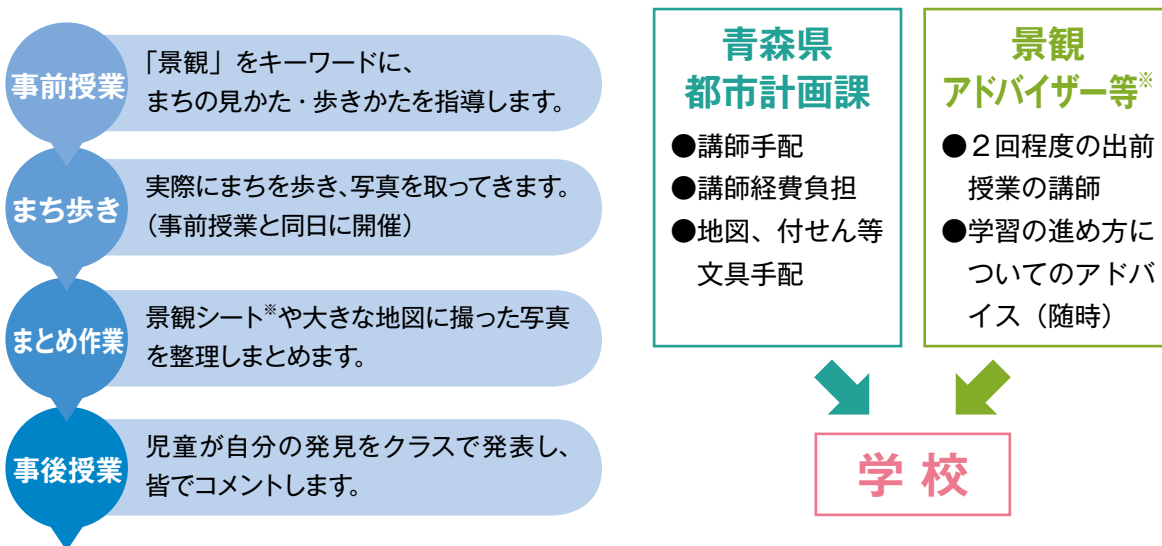
子ども達と地域探検をして、「何も見つからなかった」という結論になってしまったことはありませんか。景観学習では、まちの見かたをプロが教えるので、子ども達の「なぜ?」「おや?」をすくい上げることができます。

親子レクや学習発表会のテーマとして…

親子で一緒にまち歩きは、子どもにとって思い出深いイベントになるだけでなく、親にとっても地域を再発見する良い機会となります。また作成した地図やシートを発表する等、学校行事の学習発表会でも活用可能です。

👉 授業の流れ

県で派遣する専門家により2回程度の出前授業を実施します。まとめ作業については、基本的に各校の総合的な学習の時間等を活用して実施していただきます。
(実施内容については、実施決定後、各校の希望に合わせて調整します。)



※本事業では右ページのものを使用しました。

※学校の希望によっては、実際に景観行政を担っている、市町村職員を派遣することもできます。

👉 応募～授業実施までの流れ



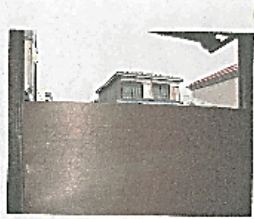
詳しくは青森県庁都市計画課までお問い合わせください。

👉 景観シート の例

子ども景観探偵団 景観シート

(気になる) 景観 名前:

写真:



写真を撮った場所: 中野こみせ通り

説明文 (なぜこの写真を撮ったのか? どう思ったのか?):

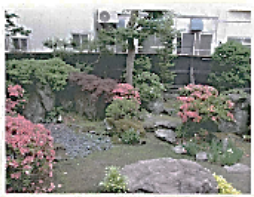
木の板でこみせの景色が全く見えません。なぜこの板があるのでしょうか。わたしから見たらこの位しか見えません。

タイトル: これじゃあ見えなない!!

子ども景観探偵団 景観シート

(すきな) 景観 名前:

写真:



写真を撮った場所: こみせ美しいつ倉官

説明文 (なぜこの写真を撮ったのか? どう思ったのか?):

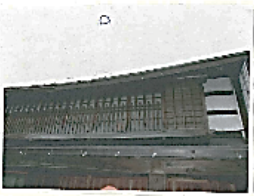
こみせ美しいつ倉官の外の庭としてもすてきここが一番気に入った。どうやってこまできれいにしたのかな?

タイトル: とてもすてきなこみせ美しいつ倉官

子ども景観探偵団 景観シート

(好き) 景観 名前:

写真:



写真を撮った場所: こみせ通り

説明文 (なぜこの写真を撮ったのか? どう思ったのか?):


屋根がゆがんでいるのをわたしは知りませんでした。これを見て大雪をたえたんだと思います。

タイトル: 大雪をたえた

子ども景観探偵団 景観シート

(きになる) 景観 名前:

写真:



写真を撮った場所: 酒屋

説明文 (なぜこの写真を撮ったのか? どう思ったのか?):

これは、酒屋で見つけました。このイロクした物を、アップしてとりました。わたしは、なんでこのようなイロのものがあるのか不思議におもいました。

タイトル: きれいふしきな物

平成26年3月
青森県 県土整備部 都市計画課

〒030-8570 青森市長島1-1-1
電話：017-734-9681 FAX：017-734-8196
toshikei@pref.aomori.lg.jp

HP：<http://www.pref.aomori.lg.jp/life/keikan/index.html>